

本田 豊

立命館大学政策科学部 教授

地域における保健・医療・福祉等の連携を推進するための新しい基準・指標の構築

健康で安心して生活できる社会を構築するために、WHO(世界保健機構)が推進している「セーフコミュニティ(以下「SC」と記す)」の概念と基準をもとに、大学と行政、民間の連携・共同による「住んでいてよかった」と地域住民が実感できる社会づくりを支援するために必要な基準・評価システムのあり方を調査研究。

WHO及びカロリンスカ研究所が協働で推進している「セーフティ・プロモーション」及び「インジュリー・プリベンション」(外傷予防)を通じたSCのコンセプト及びSC認証に用いられる評価基準などについて、カロリンスカ研究所が実施するコースを通して知識を得るとともに、それをもとに京都地域(京都市、京都市上京区春日学区、京都府亀岡市)における適応可能性について検討を行った。

また、韓国スウォン市を視察。スウォン市は、2002年にアジアで最初にWHOセーフティ・コミュニティの認証を受けた。さらに、当市の認証に大きく貢献してきたアジョー大学では、2002年にセーフティ・プロモーションセンターが「WHOアフィリエイトセンター(SC支援センター)」として認証され、アジア地域のSCネットワークにおいてもリーダー的存在となっている。韓国では、現在、首都であるソウル、チェジュ島、カンワンの3つがSC運動に取り組んでおり、そのほかにも多くの自治体も関心を示しており、SCの活動はますます活発化している。SC活動の推進においては、文化や習慣などの背景や政府との連携が不可欠であることから、スウォン市及びアジョー大学を訪問し、SC認定に取り組むに至った背景、認証までの過程、取組み内容、評価方法などについて聞き取り調査を行った。